

# 第3回常願寺川、神通川、庄川及び小矢部川大規模氾濫に関する 減災対策協議会

## 議事概要

開催日時：平成29年5月2日（火）14：00～16：00

場所：富山県民会館 4階 401号室

議事：1. 挨拶

2. 議事

（1）規約の一部改正

（2）県管理河川における水防災意識社会の再構築に向けた取組

（3）幹事会の報告

・減災に係る取組方針に基づく対策の実施状況

（4）平成29年度の主な取組

・神通川の大規模水害を想定した排水計画（案）の作成

・急流河川の特性等を踏まえた大規模水害時の「庄川・小矢部川タイムライン（事前防災計画）」の作成

3. その他

4. 閉会

## 議事概要

<規約の一部改正について>

- 今般、富山県管理河川等についても本協議会の取組実施の対象とすることとし、協議会名称の変更、第2条の対象に3河川（流域）を追加、これにより本協議会は滑川市及び上市町を含めた構成に改定、さらに事務局を富山河川国道事務所調査第一課と富山県土木部河川課と共同で行う改正（案）を事務局側より提示した。
- 提示した規約改正（案）について了承された。

<県管理河川における水防災意識社会の再構築に向けた取組>

- 富山県土木部河川課より県管理河川における水防災意識社会の再構築に向けた取組について説明があった。

<幹事会の報告について>

- 事務局側より3月に行われた幹事会について報告した。
- 事務局側より減災に係る取組方針に基づく対策のフォローアップについて説明した。

＜平成 29 年度の主な取組＞

- 事務局側より神通川の大規模水害を想定した排水計画（案）の作成について説明した。
- 事務局側より急流河川の特性等を踏まえた大規模水害時の「庄川・小矢部川タイムライン（事前防災計画）」の作成について説明した。

○構成員からの主な発言

（立山町長）

- 常願寺川は天井川であるため、周辺住民は堤防の中で何が起きているかよくわからない。それゆえに、プッシュ型配信は良い取り組みであり、多くの方に緊急速報メールのPRが必要である。
- 常願寺川は樹木等で川の水が見えない状況であり、住民からみれば川に水がないとの認識で、洪水がきても大丈夫と思われている。
- 9月23日に開催予定の防災シンポジウムで町民の方と一緒に河川敷で伐木を行う予定であり、このイベントを通じて、堤防の向こうに危険が潜んでいるとの意識を持って頂きたいと考えている。

（上市町長）

- 白岩川の治水事業に関して、堤防補強は実施済みであるが、白岩川の水位を下げる対策が必要である。
- 昭和44年以降、大きな災害は発生していないため、いざというときの対応ができるように行いたい。

（富山市建設部防災対策課長）

- 防災の基本は「自らの身は自分で守る」で、市民の知る努力、加えて行政の知らせる努力が重要である。
- 緊急速報メール、SNSやアプリ等による情報提供の多重化に努めており、今年度から英語版の災害用情報発信に取り組む予定である。
- 広域避難や排水計画の見直し等について国、県と連携を強化し、隣接する市町村との協議を重ね、防災減災に努めていきたい。

（高岡市都市創造部長）

- 河川の氾濫状況によっては市域をまたいで避難する必要が生じるため、隣接自治体との連携が重要である。
- 自治体間で共通のタイムラインを用いてどのように連携するかが課題である。
- 水害を想定した小学校区あるいは中学校区単位での避難訓練や市域を越えた避難訓練等ができればよい。

(舟橋村副村長)

- 今回、白岩川で国・県・市町村が情報共有できる組織ができたことは非常に良い。
- 気象台発表について、舟橋村は面積が小さい自治体であるため、「舟橋村を除く全県下、警報が発令された」など、特に舟橋村を除くと言われると、特に上流域で豪雨となる場合に心配な面があり、住民の注意喚起の面からも配慮していただきたい。

(射水市都市整備部次長)

- 庄川という大きな河川を抱えており、和田川合流点や河口付近の整備ができていないため、不安な部分がある。
- プッシュ型配信や浸水想定等の情報を入手できることになったのは良いが、住民避難に関しては後手になっているため、今後は円滑な対応により、住民の安心安全を確保していく。

(砺波市建設水道部次長)

- 昨年、タイムラインを策定したが、庄川や小矢部川及び県管理区間の想定最大規模降雨を対象とした浸水想定公表を受けて、見直しが必要な箇所について検討を進めていく。
- 自力避難が困難な避難者を考慮した場合、地域防災計画や国民保護計画では指定地方公共機関としてバス運行業者が規定されており、タイムラインの検討にあたっては、バスを保有する交通事業者なども参画いただき、バスによる避難行動についても考慮すべきである。

(小矢部市総務部理事総務課長)

- 小矢部川には県管理河川がいくつもあり、小矢部川本川の氾濫より県管理河川が先に氾濫するものと考えられるため、タイムラインの策定にあたっては、小矢部川本川の氾濫以前に県管理河川の氾濫も十分考慮していただきたい。
- ソフト面では昨年度に防災士会が組織され、講演等を積極的に開催している。また、女性の防災士も誕生しており、避難訓練あるいは防災意識の向上に繋げていきたい。

(南砺市ふるさと整備部建設課長)

- 南砺市は面積が大きいので、平野部と山間部で分けて避難情報等を出せるとよいかもしれない。
- 南砺市は上流側に位置しており、勾配が急なため氾濫被害は比較的小さいと考えられる。災害時には下流域の受け入れ対応を考える必要がある。

(滑川市建設部長)

- 滑川市は二級河川の上市川等が氾濫すると影響を受ける地域で、これに対する減災対策に努めてきた。今回、協議会の参画できたことはありがたい。
- 今後は気象状況等の変化も激しいため 50 年、100 年先を見据えた減災対策が必要である。また、川との共存を対策の一つの要因にとらえることも考えられる。

(富山県土木部河川課長)

- 平成 28 年度より想定最大規模による浸水想定区域図の作成を進めており、現在 41 ある水位周知河川のうち 17 河川で検討を実施している。今年度も引き続き作業を進めていく。

(富山気象台防災管理官)

- 気象台ではタイムラインおよび住民避難の支援として、きめ細やかな危険区域の周知に取り組んでいる。
- (富山市の報告に関連して) 英語版気象庁ホームページの充実や自治体の支援としてホットラインの強化を積極的に行っていく。

— 以上 —